

# 指導方針

監督 藤原洋造

**「勝つことがすべてではない しかしすべてのことは勝つためにある」**

**「甲子園がすべてではない しかしすべてのことは甲子園のためにある」**

が私の信条です。グラウンド上はもちろんですが、グラウンド以外における言動の成長も部活動に求められる必要な要素です。しかしその全ては、勝つことに結びつきます。

挨拶ができない者は、周りへの気配りや自己の主張ができず、それがそのままプレーに出ます。挨拶ができる者は、周りへの気配りや自己の主張ができ、大事な試合や大事な場面になればなるほど、力以上の結果を残したり、何より信頼ができていきます。

目の前のゴミを拾うことができない者は、気遣いができなかつたり、苦しい練習や単純な反復練習から逃げようとしたりします。目の前のゴミを拾うことができる者は、視野が広く周囲に流されない強さを持ち、苦しい練習や苦しい場面でも前向きに取り組んでいきます。

グローブやスパイクをはじめとする用具全般を大切にできなかつたり、また手入れしない者は、親や周囲の方々に対する感謝の気持ちが持てず応援されなかつたり、思わぬ事故や怪我に見舞われます。用具全般を大切にすることは、心優しく、そして野球への想いの芯があり、大人から可愛がられます。

勉強をおろそかにする者は、大事な時期に練習に参加できず、チームメイトからの信頼を失います。学習面にも真摯に向き合うことができる者は、裏表がなく、野球においても波がなく信頼できる選手となります。

これらのように、日々の言動の全てが、“勝負”に直結します。全ての考えや発想、思考、心構えは全て鎖のように連結しています。「グラウンド上だけ頑張る」、その理屈はありません。結局その者は自分の意にそぐわない多くの場面で頑張れません。全てのことに頑張れる者、その者は大事な場面や大事な試合になればなるほど信頼でき、結果を残すでしょう。

勝つために、そして甲子園の舞台に立つために、自分がすべきこと、自分たちがすべきこと、それを部員とともに絶えず探し求めていきたいと思えます。